



ほっと

No.12

<http://www.hothot.org>

ニュース

発行 2003年11月5日

発行責任者 安福 清子

編集 中橋 徹也

移動サービスについて

安福清子

小泉首相の進める構造改革の目玉として自治体が現行の法制度を超えて実施する「構造改革特別区域計画」があります。今回この特区計画が市民活動として行っていた移動サービスに大きな転換をもたらしています。

ほっとステーションの移動サービスは、デイサービスの送迎に使用した車を、その使用していない時間、高齢者や障害の有る移動困難者の移動に供したいと、自然発生的に生まれた活動です。ところが、この移動サービスは道路運送法第八〇条第一項、いわゆる「白タク行為」に該当するか否かで、多くの問題が絶えない部分でもありました。現実には介護、福祉タクシー、地方自治体の福祉輸送だけでは到底供給することはできず、道路運送法を拡大解釈し、白ナンバーにおいても、移動サービスを提供する必要に迫られているわけです。

今回「構造改革特区法案」が成立し、非営利団体でも「白タク行為」に該当しない、新しい

提案がなされたのです。それが

ZPO によるボランティア

輸送としての有償運送可能化事業（一二〇六番）

交通機関空白の過疎地における有償運送可能化事業（一二〇七番）です。

現在、ほっとステーションでは 会員として登録し、利用料を区内五〇〇円、区外一〇〇〇円としてご負担いただいています。

した。また、要介護認定を受けている人に対しては、介護保険

で乗車前介助、乗降介助、降車

後介助、院内介助、薬の受け取りなどのサービスに対して、運

転中の時間を除いた時間を合算して算定し介護保険請求で対応しています。

図式にあらわすと左図のようになります。

（次のページに続きます。）

A 通院送迎

乗車前 介助	乗車 介助	運転中	降車 介助	受診 手続
-----------	----------	-----	----------	----------

20分

10分

20分+10分=30分(身体介護中心型30分)介護費用2476円

利用者一割負担分248円

B

薬の 受取	乗車 介助	運転中	降車 介助	降車後 介助
----------	----------	-----	----------	-----------

10分

20分

C

乗車前 介助	乗車 介助	運転中	降車 介助	受診 手続	院内 介助	薬の 受取	乗車 介助	運転中	降車 介助	降車後 介助
-----------	----------	-----	----------	----------	----------	----------	----------	-----	----------	-----------

運転時間を除いた身体介護中心型を算定

自宅から病院、院内介助を経て自宅に帰るまで3時間かかったとすると、3時間-運転中の時間=介護請求時間ということになります。運転中の車の維持費、人件費などは請求されません。

今年度中には、国土交通省から以下のようなガイドラインが出されることが想定されます。

運送主体が社会福祉法人、

NPO など非営利組織であること

運転者が十分な能力や経験を有していると認められること

使用車両を福祉車（リフト車、回転シート付車）に限定すること

自家用車両でないこと
損害賠償保険に加入していること

一般乗用旅客自動車運送事業（タクシー）の上限運賃額の二分の一を目安に勘案しつつ、営利に至らない範囲で料金設定されること

しかし、このガイドラインは道路運送法の枠内での発想であり、自由な移動サービスに繋がるものではありません。国内に五〇〇万人といわれる移動困難者が自由に外出の恩恵を受けることは難しいでしょう。

いま、オレンジナンバー構想というのも浮上しました。「緑ナンバー」「第二種免許」を義務化

せず、新たに「マイカー（白ナンバー）」「第一種免許」を容認した「オレンジナンバー」が提案されています。

このように移動困難者を取りまく状況は刻々と変化し、福祉の世界は変わっていきます。私達は法の波に惑わされることなく、「生きる」支援として「移動サービス」を定着させたいものです。

ほっとステーションの
寺坂望くん & 岡本篤子さんが結婚しました



皆さん。
これからもよろしく
お願いします。

おめでとう
ございます。

ほっとステーションは移動サービス事業を行っています。

移動部 森田 尋二

病院や福祉施設への送迎が主で、予約を原則としていますが、緊急の場合にも対応できるよう勤めています。ADL(日常生活動作)の中で移動は食事、排泄と並んで重要な核になっています。私達は日常生活の中で自由な移動を必要としているのです。しかし、ハンディを持っている人は公の交通機関の利用が困難です。

ほっとステーションの移動サービスは移動の困難な高齢者や障害を持った人の外出を支援しようという考えから生まれました。現在は病院や施設への送迎が主ですが、将来は日用品の買い物、観劇、スポーツ観戦のみならずお墓参り、冠婚葬祭への参加、駅・空港への送迎、温泉地への移動も視野にいれサービスの向上を図っていきます。

欧米に旅行中、車椅子で絵画や映画を楽しむ人々の姿が見受けられました。最近では日本でも障害者用の席を常設する劇場等も増え、外出を楽しむことが出来るようになってきています。

私にとって旅は永遠の憧れです。未知の人々に接し、景色を眺めるだけで心が自由になり、活性化するのがわかります。そんな気持は誰でも持っていると思います。希望するすべての人に海外までも移動範囲を拡げられたらと思っています。

ある作家が見の不自由な人たちをイスラエルの死海へ連れて行ったとき、人々は素足で砂を感じ、景色を風で想像したといひます。身体が不自由な人でも旅に出たい人がいたら、それを夢で終わらせたくないのです。移動サービス部の中に旅行課「ほっとトラベル」を設け、皆さんの旅のお手伝いをしたいというのが私の夢です。そのためには移動中の体調の変化にも対応できるよう努めることはもちろん、各事業所がネットワークを組み利用機会を確保する必要があります。現実には運行時間や運行範囲が限定されるなど様々な問題と課題がありますが、安全を第一として移動サービスの運行を続けていきます。

「移送」は受動的な意味があるのに対して、「移動」は利用者の選択という主体性を含みます。「又、ほっとステーションの移動サービスを利用したい」と思っていたら、社会とのつながりの橋渡しになればと願っています



ありがとうございました。

助成金・寄付金を頂きました。

深水譲二・久美子様

賛助会員

特定非営利活動法人
NPO 人材開発機構

社会福祉事業団 淀橋荘
(敬称略・順不同)

ほっとステーションは、
皆様からのご支援を大切にして
活動してまいります。

ほっとステーションでは、ホームページでも、随時、新しいニュースをお届けしています。是非ご覧下さい。

ホームページアドレス
<http://www.hothot.org>
電子メールアドレス
hot@hothot.org

